

第7回地区庶務担当理事連絡協議会

と き 11月26日(水) 午後2時30分

△森会長挨拶

森府医会長は、衆議院解散・総選挙について、アベノミクスで最も重要な成長戦略で十分な成果が得られておらず、消費税増税の先送りにつながったことが最大の争点になるとの認識を示すとともに、「大義なき解散」と言われている一方で、積み残された種々の重要法案について議論する時間ができたと考えるべきとの見方を示した。また安定政権が解散・総選挙に踏み切った理由は、一強多弱を恒常化させ長期政権に繋げるためとの考えを示し、野党がこの政治情勢をどれだけ盛り返していけるかも注目点であるとした。

一方、地域医療においては、医療・介護の連携をさらに進めるという観点から、今まで以上に多職種連携を強化し、住民のためのシステム作りに邁進すると意気込みを示した。また、新たな財政支援制度（基金）は、地区医が中心となって進める重要な取り組みであるとして、各自治体と密に連携を取りながら進めてほしいと期待を示した。

△報告ならびに協議事項

1. 医師届出票について（濱島理事）

今年は、医師法で2年ごとに定められている医師の就業状況等届出の年となっていることを報告し、平成27年1月15日までに住所地または就業地のいずれかの最寄りの保健所に提出していただくよう周知を依頼した。また、届出を行わなければ「医師等資格確認検索システム」に氏名等が掲載されないことを説明し、注意を促した。

2. 麻薬免許証の交付について（三木理事）

10月に申請書を提出された本年の更新対象者の麻薬免許証について、交付日時・場所や必要書類等を説明した。（京都医報11月15日号「保険だより」参照）

3. 最近の中央情勢について（城守理事）

10月下旬から11月中旬にかけての社会・医療保険状況について、消費税増税先送りや患者申出療養についての話題を中心に説明した。

4. 今の医療、こんなんで委員会公開委員会について（小野理事）

と き 12月14日(日) 午後1時～3時

ところ 京都府医師会館3階大ホール

テーマ 終末期医療 「人生の終わり方 ～延命治療について考える～」

医療・介護関係者、一般府市民、マスコミ関係者などが集まり、本音で議論する「今の医療、こんなんで委員会」が、第29回日本医学会総会2015関西のプレイベントとして約3年

ぶりに開催されることを報告。会員のみならず、患者、家族、医療・介護関係者などの多数の参加を呼びかけた。

また、第29回日本医学会総会2015関西の事前参加登録状況について、10月末までの早期登録において府医の目標に対しほぼ100%と全国一の達成率であったことを報告し、地区医の協力を謝意を示した。その上で、事前参加登録は1月末まで行われていることを案内し、引き続き積極的な登録を呼びかけた。

さらに、医学会総会への協力金の要請についても既に15地区医より協力いただいていることも報告し、感謝の意を述べた。

5. エボラ出血熱への対応について（藤田理事）

エボラ出血熱について、検疫所における体温測定や当該国の滞在歴確認が行われているにも関わらず、感染が疑われる患者が、渡航歴を報告せずに地元の診療所を受診した事例が発生したことに触れ、今後の対応を周知した。

医療機関の対応として、①発熱症状を呈する患者には必ず渡航歴を確認、②発熱症状に加え、「ギニア・リベリア・シエラレオネ」への過去1ヶ月以内の滞在歴がある場合は、エボラ出血熱の疑似症患者として保健所経由で都道府県知事へ届け出る、③前述の条件の患者から電話での問い合わせを受けた場合は、受診させずに最寄りの保健所へ連絡するよう要請。併せて、医療機関からも保健所へ連絡を行うのが望ましい—の3点を求めた。さらに、疑似症患者が来院した場合には、別室で待機させ、保健所に報告後、感染症用の救急車で府立医大に搬送する流れとなることを説明した。

また、主な感染経路は体液への直接接触であるとし、特に感染源となる吐物には厳重な対応が必要であるとした。消毒については、一般的なアルコール消毒が有効であるとして、発生した際の冷静な対応を求めた。

6. 難病および小児慢性特定疾病に係る医療費制度変更について（藤田理事）

「特定疾患治療研究事業」および「小児慢性特定疾患治療研究事業」が来年1月に新制度に移行することに伴い、概要を説明。主な変更点として、対象疾患の拡充と自己負担額の変更を挙げるとともに、指定医療機関および指定医の申請手続きが必要となることを説明した。

（京都医報10月1日号・11月1日号「保険だより」参照）

また、京都市と京都府で申請時期が異なることから注意を促すとともに、行政による説明会が行われることを案内し、会員への周知を依頼した。

7. 学術講演会の今後の予定について（小野理事）

12月・1月に予定している京都府医師会学術講演会を紹介し、多数の参加を呼びかけた。